

誰もが抱える悩みをパワッと解決！

福田貴一先生の

福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副部長
福田 貴一

2040年の全国の大学入学人数が、現在の約63万5000人から13万人ほど少ない50万人前後で推移するという将来推計が、昨年文部科学省より公表されました。メディアでは数年前から、いわゆる「大学全入時代」が既にやってきている、という発表もされています。大学入試はどのように変化しているのでしょうか。これからの大学入試、そして社会で求められる「学歴」について考えます。

変わる「大学入試」、変わる「学歴」

大学に入りやすくなった……？

「大学全入時代」と聞くと、「大学入試は楽になってきた」「入学しやすくなった」とお考えになる方がいらっしゃるかもしれません。確かに、大学や学部を選ばなければ「大学生になるためのハードル」は低くなっているといえるでしょう。1990年に約205万人だった全国の18歳人口は、2024年には約106万人と、半数近くまで減少しています。大学進学率は年々上昇しているのですが、それ以上に「少子化」の影響が大きく、私立では5割を超える大学で「定員割れ」が起きている、というデータもあります。また、かつて「浪人生」と呼ばれた既卒生の数も大きく減少しています。既卒生の数がピークを迎えた1990年代には、「一浪はひ

となみ（人並み）などといわれ、複数年かけて難関大学入試に挑む生徒も多くなりました。「予備校に通うため首都圏にやってくる」という生徒も多かったようです。しかし、既卒生の大学志願者数は減少し続け、今では志願者の約8割以上を現役生、つまり高校3年生が占めています。また、オンライン授業や映像授業が普及したことで、予備校に通うために上京する生徒も少なくなってきました。

ただ、「大学全入時代」といっても、最難関・難関といわれる大学の倍率が1倍を下回り、出願すれば合格できるようになった……というわけではないことは皆様もご存じの通りです。今の大学入試で生じているのが「二極化」です。倍率が2倍以上の「人気大学」と、1倍前後の比較的入りやすい大学に二分されているわけです。

以前「大学に入りやすくなったから高校生が勉強しなくなった」という話題の新聞記事を見たことがあります。これは少し乱暴な言い方だとは思いますが、確かに高校生の勉強の仕方は変わってきているでしょう。二極化された大学のどちらを目指すかによって、学習の進め方は大きく変わってくるからです。また、大学入試そのものも多様化していて、いわゆる「一般選抜」だけでなく、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」を採用する大学・学部が増えています。そういった意味で、「一般選抜に向けて必死に科目学習に取り組む」という高校生の割合は減ってきたといえるのかもしれませんが。

これから求められる「学歴」とは

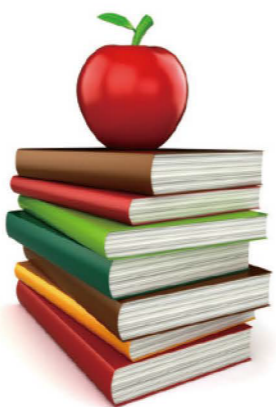
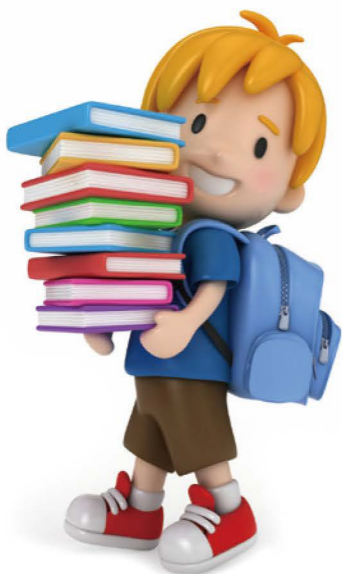
皆様は「学歴フィルター」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。大学生の就職活動において「一定レベル以上の大学を卒業していないと、選考の土俵にも上がれない」という状態を表す言葉です。企業のなかには「履歴書に最終学歴を書かせない」というところも出てきていますので、ひと昔前と比べれば「学歴重視」の風潮は薄らいでいるようですが、とはいえ「学歴」が選考の基準の一つであることは変わりないでしょう。

ただ、私は、求められる「学歴」がこれから大きく変わっていくと考えています。知識や情報を得ること自体が難しかった時代には、「知識量」の差が「能力」の差ととらえられがちでした。たくさん知ることを知っている人が、「頭のよい人」と評価されているようなイメージです。そのため、大学入試では主に「どれだけ知識を持っているか」が問われ、受験生は多くの知識を身につけるために時間を費やして

求められる「学歴」が変わっていくのであれば、自ずと求められる学習姿勢も変わってきます。知識をただ「教わる」という姿勢ではなく、「自分で学び、自分で考える」姿勢が必要になってきます。中学・高校においても、「大学入試を突破するため」ではなく、「大学で学ぶための力を身につける」ことを念頭に置いて学習を進めることが大切になってくるでしょう。

「合格」のためだけではない学びを

そして、私は進学塾での学習についても同じだと考えています。「進学塾」ですから、「志望校に合格できる力」を育てるのは当然のことです。ただ、これからの社会を生きるお子様に対して、「合格できればよい」という指導では十分



とはいえません。中学受験は、11・12歳のお子様にとっては本当に大きな挑戦です。その貴重な機会を通じて、「本気で真剣に取り組む姿勢」「問題を発見し解決する力」「困難を乗り越えてやり抜く力」を育み、進学した中学でしっかりと学ぶことのできる力を身につけていただく。そのことを意識して生徒に向き合うことも、我々進学塾講師の重要な役割であると考えています。

福田 貴一 の
四つ葉café

公開中!

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副部長
福田 貴一

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

右の二次元コードを読み込んでご確認ください

スマートフォンのみ